

しぐさの話【解答・解説】

●はじめに

人間の他にも様々な動物たちが生きていること、みんなが同じ地球上の仲間であり、お互いに関わり合って生きることを実感するには、まず個体レベルでの動物の理解が必要です。そこで第1ステップとして動物に共通する様々な形態を取り上げてみました。今回のテーマは「動物のしぐさです」。

野毛山動物園で動物を観察される際に、飼育係を見かけましたらお気軽に声をおかけください。動物たちのとっておきの話が聞けるかもしれません。

●ねらい

動物たちの見せるしぐさや行動にはひとつひとつ意味があります。飼育されている動物では、野生の行動を見せなくなることもあります。それでも本来の行動を色濃く残していることも多くあります。今回は動物のしぐさや行動を観察することで、そこから見えてくる動物の生態に気づくことをねらいとしています。

●解説

①レッサーパンダ

■分類：食肉目 アライグマ科

■生息地：ビルマ北部から中国南部の標高の高い竹林地帯

■野生での暮らし

単独で生活しています。一日中活動しますが、早朝と夕方は特に活発になります。動作はあまり俊敏ではないが、爪をうまく使い木登りが得意で、木の上で休息したり、木から木へ移動することもあります。

竹の柔らかい葉やタケノコが主食ですが果実・ドングリ・キノコ・小動物・鳥及び卵なども食べることもあります。前肢には、手首の骨が変化した特殊な突起（種子骨）があり、これと他の指を使って物を持つことができます。

雌雄共にテリトリーの主張や他個体とのコミュニケーションの手段として肛門近くにある臭腺を木や石に擦り付け行動（マーキング）をします。

■動物園で見られる行動

午前中の早い時間と夕方によく動き回り、この時に竹の葉を食べているところを見ることができます。日中は木の上や、部屋の棚の上で寝ていることが多くあります。繁殖期である冬には追いかけてこや、鳴き交わし、臭い付け行動（マーキング）が頻繁に見られます。

②アミメキリン

■分類：偶蹄目 キリン科

■生息地：アフリカ エチオピア南部からケニア北部のサバンナや低木林地帯

■野生での暮らし

主食はアカシアの葉で、他にも花や若枝、豆のさやなども食べます。採食は日中から夜間まで行いますが、昼間の暑い時間帯にはほとんど活動せず、日陰などで休んだり、反芻（かみ戻し）しています。木の葉を食べるときは、約45cmも伸びる長い舌を巻きつけるようにして葉を引き寄せ、枝から葉だけをしごき取るように食べます。また、雄は首を上へ伸ばしより高いところの葉を食べ、雌は首を水平にしたまま雄よりも低いところの葉を食べる傾向があります。歩くときは、同じ側の前肢と後肢を同時に出して歩きます。走り方は、左右の前肢を同時に出して、後肢はその外側におきます。全速力で走ると時速約60kmのスピードが出ます。

■動物園で見られる行動

午前中と夕方にはエサかごの牧草や木の葉を食べたり、運動場の周りに生える木の葉に舌をのばしたりしている姿をよく見かけます。野生で成獣が座ることはほとんどありませんが、動物園で飼育しているキリンは座ることがあります。午後になると座って反芻しているところを見ることができます。よく観察していると、飲み込んだ食べ物が長い首を下りていたり、また上がってきて口の中にためてもぐもぐとかんでいます。

③ニホンアナグマ

■分類：食肉目 イタチ科

■生息地：本州、四国、九州

■野生での暮らし

雑食性で小動哺乳類、小鳥、爬虫類、カエル、昆虫、ミミズ、果実などを食べます。アナグマは大きくて太い爪の生えた強力な前肢で、土を掘って巣穴を作ります。トンネルのような巣穴にはいくつも出入り口があり、寝る場所には乾いた草や苔を敷いてあります。冬の間はほとんど活動しないで、巣穴の中で過ごします。季節によって体重が大きく変化します。一番軽い初夏と冬ごもり前では1.4～1.7倍ものちがひがあります。アナグマは別名マミ、ムジナとも言われ、なぜか人を化かすと昔話でも有名です。

■動物園で見られる行動

夜行性のため日中は不活発で寝ている時間が多いのですが、午後になると動き出します。落ち葉の中に鼻を突っ込んで探索したり、まるでトンネルを掘るように落ち葉の中にもぐりこんで動き回ったり、新しい乾燥で寝場所をつくったりします。繁殖期（春）には雌雄でじゃれあう様子や交尾が見られます。

④アカエリマキキツネザル

■分類：霊長目 キツネザル科

■生息地：アフリカ マダガスカル島の東部降雨林

■野生での暮らし

主食は果実で、木の葉、花や花の蜜も食べます。朝と夕方に餌を探し、気温の高い日中は休憩します。夜はほとんど動きまわりません。繁殖期は冬で、春先にこどもを巣の中で生みます。生まれたばかりのこどもを胸に抱いて移動する大部分のサルとちがって、エリマキキツネザルの母親はこどもを巣に置いておき、授乳のときに戻ってきます。

騒々しい鳴き声にはなわばり宣言の言葉や、森の中で群れがばらばらにならないようにする役割があると考えられています。複数のオスメスが一緒に暮らしますが、メスの方が優位でより攻撃的です。森の中で違う群れが出会うとメスが威嚇をします。

エリマキキツネザルは毛づくろいをする時、舌と櫛の様に揃った下あごの前歯をよく使います。名前の由来は首の周りの長い毛がまるで襟巻をしているように見えるからです。また、原猿類という、霊長類の祖先型の特徴を多く残しているサルの仲間です。

■動物園で見ることができる行動

天気の良い日中は日光浴をしている姿をよく見かけます。追いかけてこ、毛づくろい、天井からさかさまにぶら下がったり、止まり木から止まり木へ飛び移ったり軽快に動き回ります。シマウマが鳴いた後や、園内放送の後には動物園中に聞こえるようなにぎやかな鳴き合いが始まります。

このワークシートに対するご感想やご意見、またワークシート作りへのアドバイスを
お寄せください。今後の参考とさせていただきます。どんな事でも結構です。先生方の
声をお待ちしています。

横浜市立野毛山動物園 〒220-0032 横浜市西区老松町63-10
TEL045-231-1307 FAX045-231-3842
http://www.nogeyama-zoo.org/
教育普及担当